

## オカムラグループの環境マネジメント

オカムラグループは、環境方針に基づいて環境経営を推進していくために、グループ会社を含めた組織体制を整備するとともに、環境マネジメントシステムの構築・運用を通じて、継続的な取り組み推進と環境パフォーマンスの向上を目指しています。

### 環境マネジメントシステムの構築・運用

オカムラグループは、グループ各社でISO14001\*規格に基づき認証を取得し、環境マネジメントシステムを構築・運用しています。オカムラの各部門とグループ各社に環境管理責任者を配置し、グループ全体として環境への取り組みを管理・推進する体制を構築しています。

また、社外の環境関連団体などと積極的に交流を図り、環境経営・環境管理などに関する新たな知見や最新情報の把握に努め、グループ全体の環境マネジメントのレベルアップに結びつけています。

\* ISO14001：国際標準化機構（ISO）が定める環境マネジメントシステムの国際規格

### 経営層・環境管理責任者によるマネジメント

オカムラグループ全体として環境経営を推進していくために、年2回開催されるサステナビリティ委員会において、環境長期ビジョンや環境中期計画の目標達成に向けた年間計画の確認と取り組みにおける課題等の討議を行っています。

また、グループ環境管理責任者会議を毎月開催し、環境関連の法規制や国際動向等への対応をはじめ、環境マネジメントシ

ステムの運用状況、各社・各部門における課題や対策など、さまざまな事項について議論を行い、グループ各社間の意思疎通と情報の共有化を図るとともに、改善事例などを水平展開しています。

### 外部機関による審査と内部監査の実施

ISO14001規格に基づく審査は外部機関により毎年実施され、オカムラのグループ認証\*と関係会社（製造拠点国内4社、海外1社）の単独認証で有効性が確認されました。

また、グループ認証では各サイトの内部環境監査とグループ内部環境監査をそれぞれ年1回実施しています。監査結果は

グループ内で水平展開を行い、グループ環境管理責任者会議とサステナビリティ委員会に報告し、環境マネジメントシステムの継続的改善につなげています。

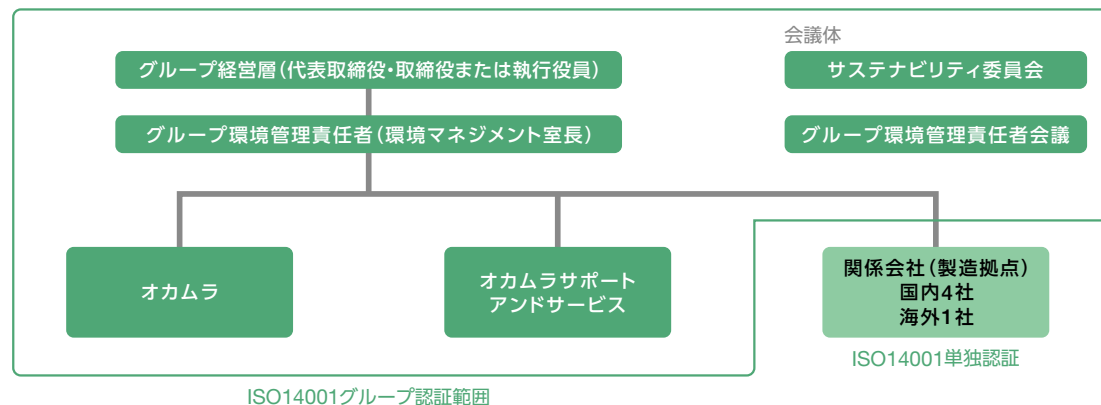
\* オカムラのグループ認証：オカムラ、オカムラサポートアンドサービス

### 緊急事態の対応

オカムラグループでは、緊急事態が発生したときの対応について迅速かつ的確な対応により事態の拡大防止と早期収束を図ることを目的に「緊急事態対応規程」を定めています。

環境面ではISO14001で有害物質の漏えいを緊急事態と特定し、監視するとともに対応手順を定め順守しています。各サイ

#### オカムラグループの環境マネジメントシステム推進体制



トでは防災訓練など入居拠点の対応規定にのっとり災害時の備えをしています。

また、生産事業所では事業を行う地域の行政機関との連携協定締結や、地域の防災活動に参加しており、富士事業所では工業用水や生活用水として利用している富士山の伏流水を、災害時に市民提供する連携協定を御殿場市と締結しています。(詳細 [▶ P.143](#))

## 環境教育・啓発活動

オカムラグループは、全ての事業活動において環境負荷低減活動を実践することを環境方針に掲げており、実際に活動を

推進する従業員一人ひとりの意識向上を目的に、環境教育・啓発活動に注力しています。

### 体系的な環境教育の実施

従業員が、企業活動に伴う環境負荷、オカムラグループの環境方針や計画、環境マネジメントシステムに基づく取り組みなどについての理解を深め、目標に向かって具体的な行動に移せるよう、新入社員・キャリア入社者を対象とする必修教育と、各部門がISO14001に基づきプログラムを整備した部門教育を行っています。

また、FSC®認証に関わる製品、資材を取り扱う部門では、適正な運用を徹底するため、専門教育を実施しています。全従

業員に対しては、ISO14001の教育の中にFSC®認証に関する項目を設け、制度の理解を促しています。(関連 [▶ P.63](#))

### サステナビリティ活動表彰制度

事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品・サービスの開発・提供に向けた意識の向上と実践を促すため、2003年度より環境活動表彰制度を設けて社内の優れた活動を表彰していましたが、2022年度に評価基準をSDGsの17の目標との関連性を加味して、3つの部門に分けて評価を行い表彰する制度に拡大しました。

### サステナビリティ表彰 (2023年度)

(全表彰19件から抜粋)

表彰部門/受賞内容	受賞部門
<b>環境負荷低減・削減の部 (設備、省エネ)</b>	
塗装ライン更新によるCO <sub>2</sub> 排出量削減	追浜事業所
太陽光発電導入によるエネルギー削減	御殿場事業所
粉黛塗装設備更新によるエネルギー削減、特定色の移管によるPRTR排出・移動量削減	山陽オカムラ
<b>サステナブル事業推進の部 (製品・サービス・物件提案など)</b>	
店舗地震対策製品「免震アジャスター キャップ・ミューパッチ」の開発と拡販	商環境事業本部
未利用材活かすプロジェクト	オフィス環境事業本部 他
下取り品の販売リユース推進	生産本部 物流部門
<b>サステナブルな社会に向けた活動の部 (従業員、地域社会、学校など)</b>	
災害時における支援協力に関する協定締結 (御殿場市)	富士事業所
東京都中央区 まちかどグリーンデー地域貢献活動	セック

### オカムラの環境教育

種別	対象	名称	内容
必修教育	新入社員	新入社員研修	● 環境問題 ● EMS <sup>*1</sup> 導入編:企業活動と環境負荷
		新入社員フォローアップ研修	● EMS活動実践編
	キャリア入社者	キャリア入社者研修	● 環境問題 ● EMS導入編:企業活動と環境負荷
	全従業員	メール配信/社内報	● カーボンニュートラルに向けた世間動向、オカムラの現状、取り組みなどタイムリーな情報提供
部門教育 (ISO14001による)	全従業員	一般教育	● 環境方針や全社の環境目的・目標・実施計画 ● グリーンオフィス活動 ● 法務情報に基づく同時引き取りに関する教育 (営業担当)
		専門教育	● 各部門ごとの環境目的・目標・実施計画 ● 著しい環境側面に応じた教育訓練 ● 産業廃棄物管理マニュアルに基づく教育 (施工管理部門)
		管理者教育	● 管理者としてのEMSなど
FSC®教育 (CoC認証による)	全従業員	一般教育	● 認証制度の理解
	関連部門	専門教育	● 管理規定、手順の理解
体験型教育 <sup>*2</sup>	全従業員	生物多様性・森林再生研修	● 生物多様性保全・森林整備 (実習含む)
	推進担当者		● 「ACORN」活動推進のための知識

\* 1 EMS:環境マネジメントシステム \* 2 体験型教育 (詳細 [▶ P.64](#))

## 環境コミュニケーション

事業活動に関する環境情報を開示し、ステークホルダーの皆さまとの双方向のコミュニケーションに努めることで、グループ全体の環境活動の充実につなげています。

オカムラグループでは、1995年に環境パンフレット『豊かな未来へ』を発行して以来、さまざまな媒体を通じて環境情報を発信しており、環境関連のイベントやオカムラの新製品発表会でも環境への取り組みを紹介するなど、環境コミュニケーションの充実に努めています。また、環境への取り組みに関して、ステークホルダーの皆さまから寄せられたご意見・ご提案を、関連部門にフィードバックし活動に反映させるとともに、より充実した情報発信に役立てています。

『オカムラグループ Sustainability Report 2023』は、環境省が主催する第5回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」の環境サステナブル企業部門において、開示の改善度合いが高く、より一層の発展が期待される企業として「環境開示プロGRESS企業」に選定されました。



## 環境活動を通じた地域社会との共生

オカムラグループのものづくりや事業活動で得た知見を活かした環境教育の実施、地域の環境保全活動への参画などを通じて、地域社会との共生を図るとともに環境意識の向上に貢献しています。

### 小学校での環境出前授業の実施

オカムラは、子どもたちの環境意識の向上を目的に、従業員が小学校に出向いてオカムラが蓄積してきた知見などをもとに

授業を行っています。授業の中では、子どもたちにとって身近な学校の机とイスを題材に、世界と日本の森林の現状や資源の有限性を伝え、環境問題が身近な問題であることを学び、自分たちにできることを見つけて行動する気付きの場を提供しています。（関連 ▶P.65）

横浜市立権太坂小学校では、4年生が「木の魅力を伝える」ため、学校の中の木でできたものを探して、木が使われている理由を探ったり、本物の木に触れる体験をしました。



山から切り出してきた丸太を触るのは初めての体験



タンバリンも木でできているね！

### 環境出前授業実績

実施年度	対象人数	対象学校数
2007-2018	5,769名	68校
2019	444名	4校
2020	197名	4校
2021	506名	8校
2022	865名	13校
<b>2023</b>	<b>290名</b>	<b>6校</b>

### 関東学院大学での寄付講座

オカムラが会員となっている横浜グリーン購入ネットワーク\*が実施している寄付講座で2022年に引き続き講師を務め、「木材利用によるサステナビリティの推進」をテーマに、学校法人関東学院大学にてオカムラの環境への取り組みを紹介しました。

\* 横浜グリーン購入ネットワーク：地域とのつながりを大切にし、市民と企業・団体、行政が協力して環境に配慮した製品・サービスの購入や提供を推進していくことを目的に活動するネットワーク（グリーン購入ネットワーク（GPN）の横浜における地域組織）

横浜グリーン購入ネットワーク  
http://www.y-gpn.org

### 産学官連携による木育の推進と地域活性化

オカムラは、山形県小国町および東北芸術工科大学と連携し、木育や地域における木材利活用の推進を目的とする活動の一つとして、学生がデザインした家具を町内産の材を用いて小国町内の施設で製作し、同町の3歳児に贈呈する「ファーストファニチュア事業」を2018年から継続しています。



自分でオイルを塗ってつるつるに仕上げます

## VOICE

## 宇治市立笠取小学校での環境出前授業



オフィス環境事業本部  
ワークデザイン研究所  
所長  
森田 舞

普段は神奈川県や横浜市で実施している環境出前授業ですが、今回は京都府宇治市まで出向いての授業でした。宇治市の笠取小学校は山に囲まれた緑豊かな土地にあり、ご家族や地域の方とも沢山の交流がある学校です。そんな笠取小学校の学校林で集めた木材を自分たちが使用するデスクにする「笠取スマイルプロジェクト」の一環として、森林についての授業をしてほしいという依頼があり、「ぜひご協力させてください」ということで訪問してきました。

環境出前授業では、学校の教室の机とイスをつかって「日本の森林について考える」というテーマで授業をしています。子どもたちは、SDGs17の目標のうち、つくる責任つかう責任、陸の豊かさを守ろう、パートナーシップで目標を達成しよう、などにも関連する形で、日本の国土の約68%が森林であることや、木を育てる過程での間伐など手入れの大切さ、そして木を無駄なく使うための工夫などを、実際の材料を手に取りながら学んでいきます。

今回の笠取小学校での環境出前授業では、まず教室で全校児童が集まり授業を行いました。その後、みんなで学校林に行き未利用材（落ちている枝や倒木）を拾いました。その拾った未利用材は後日チップ状にし、それを圧縮して机の天板に加工をして学校に届けられました。

「笠取スマイルプロジェクト」が環境にどのように関わっているのかなどを事前に学んでいたことで、今回の机が子どもたちにとってより思い入れのあるものになっていれば嬉しいです。



日本はどここの国から木材を輸入しているだろう？

 学校林から机ができた！子どもたちの学びをお手伝い -前編 | オカムラ ACORN ウェブサイト  
[https://acorn.okamura.co.jp/topics/report/2023/12/15/kasaroti\\_1/](https://acorn.okamura.co.jp/topics/report/2023/12/15/kasaroti_1/)